

アウトリーチ

通信



第 38 号

2021 年 9 月 20 日発行
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための コンサート・シリーズ

スプリング・コンサート

三月六日（土）、西宮市フレンドホールにて「子どものためのスプリング・コンサート」弦楽器のヒミツ」（「子どものためのコンサート・シリーズ」第五十八回）を開催しました（第一部十一時開演、第二部十四時半開演、各六十分、来場者数・第一部七十八名／第二部七十七名、計百五十五名）。

出演は「音楽によるアウトリーチ」履修生を中心とした中原



く知ってもらえるようなプログラムを構成しました。

まず、幕開けとして J. シュ

真依（ヴァイオリン）・藤井耀誉（ヴァイオリン）、玉置華（ヴィオラ）、鳩山冨映（声楽／ピアノ）、佐々木里緒（ピアノ）・大村麻衣（ピアノ）の六名です。

このコンサートでは、弦楽器を主軸として、その魅力をよりよく知ってもらえるようなプログラムを構成しました。

第四曲はヴィオラ・ソロによる A. ピアソラ作曲（オブリビオン）です。「ヴィブラート」とい

トラウス二世作曲（川上千晶編曲）（春の声）を演奏し、弦楽器の仲間を紹介しました。第二曲は E. エルガー作曲（愛の挨拶）で、メロディーが各楽器に移り

う音を揺らして響きを増す奏法を紹介し、それをういてヴィオラの心に沁みる物悲しい音色をさらに際立たせました。

ここで楽器紹介コーナーとして、ヴァイオリン本体や弓の重さを紹介し、弓の毛に塗る「松脂」という大事な道具をお見せしました。松脂は、弦楽器を演奏しない人にとっては知る機会

が少ないので、大人の方も興味深く聞いてくれました。

また、



弓を使わずに指で弦をはじく「ピツィカート」という奏法を紹介し、それをういて演奏する J. シュトラウス二世作曲（松尾璃奈編曲）（トリッチ・トラッ

チ・ポルカ」を軽快にお届けしました。

プログラム中盤では、会場の皆様とリズム・アンサンブルをしました。春が旬の「イチゴ」と春の鳥「ウグイス」を用いたリズム二つを、岡野貞一作曲（鳩山冨映編曲）（春が来た）に合わせて叩きました。その後、緩急するピアノに合わせて各自好きなリズム

を叩いてもらって、アンサンブルの楽しさを感じてもらいました。



第六曲は声楽のソロでW・A・モーツァルト作曲（すみれ）です。春に紫色の小さな花を咲かせるすみれの情景が浮かぶようなかわいらしい曲です。ここで、弦楽

器の弦を弓でこすって振動させて音を鳴らす仕組みは、人が声帯を震わせて声を出すのと同じであることを伝え、声を出しながら喉に触って体感してもらいました。人の歌声と弦楽器の音色がよく似ていることも伝わったように思います。

第七曲は声楽と弦楽器でJ・S・バッハ作曲（主よ、人の望みの喜びよ）です。弦楽器は「レガート」奏法を用いて、より滑らかに声楽と一体となって演奏しました。第八曲は運動会でよく使われるJ・オッフェンバック作曲《天国と地獄》より（序曲）で、二つ以上の音を同時に弾く「重音」という奏法を用いて、力強さや勢いを加えました。

第九曲のV・モンテイ作曲（ヘヤルダツシュ）では、これまで紹介した奏法のすべてと「フラジオレット」という倍音を響かせる奏法も用いました。奏法の

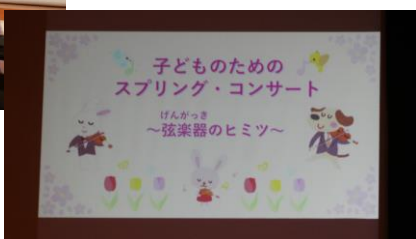
多さに加えて曲調も緩急があり、弦楽器の可能性が最大限に生かされる曲の一つです。プログラム集大成となる曲でもあり、お客様も盛り上がった様子でした。

最後はP・マスカニニ作曲オペラ《カヴァレリア・ルステイカーナ》より（アヴェ・マリア）を演奏しました。弦楽器が歌うように演奏し、声楽と呼吸を合わせることで、改めてアンサンブルの楽しさを伝えました。

例年とは違う会場で、感染防止策のため制限されることも多く、その中でいかに音楽のおもしろさを体感してもらえるかに心を砕きました。あえてストリー仕立てにしないことで、楽器本体や演奏法など、さまざまな視点から弦楽器についてより深く盛り込むことができました。演奏の編成も変化させ、ソロとアンサンブルの両

方のよさを伝えました。ヒミツを少しずつ解き明かしながら、それに沿った曲を演奏していくことで、弦楽器のおもしろさや可能性を、たくさんの方に知っていただけたと実感しています。

（玉置華・記）



今後の活動

子どものための

オルガン・コンサート

「子どものためのオルガン・コンサート」オルガンの音色に隠れた動物を見つけてみよう！
「子どものためのコンサート・シリーズ」第五十九回）を十月十六日（土）に本学エミリー・ホワイト・スミス記念講堂で開催します（十四時開演、六十分公演、三歳以上対象）。

出演はオルガニストの大木麻理（本学音楽学部非常勤講師）、本学音楽学部オルガン専攻生の森友歌（三年生）と村田沙耶（一年生）の三名です。

曲目はフランスの作曲家カミーユ・サン＝サーンス（一九三五～一九二二）の代表作《動物の謝肉祭》です。オーケストラ用に使われた楽曲をオルガンで演

奏することによって、多彩な音色を操ることのできるオルガンの持ち味が存分に発揮されることとでしょう。今年はサン＝サーンスの没後百年に当たり、その記念コンサートという意味合いもあります。

どうぞご期待ください。



子どものための

クリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート」世界からの贈り物」（同第六十回）を十二月十一日（土）に本学エミリー・

ホワイト・スミス記念講堂で開催します（第一部十一時、第二部十五時半開演、各六十分、第一部は年齢制限なし、第二部は幼稚園年長以上対象）。

出演はアウトリーチ既習生を中心とする「アウトリーチ・プロジェクト あっぷっぷ」の六名（声楽・谷田奈央、ヴァイオリン・東瑛子、玉置華、打楽器・安達梨紗、編曲／ピアノ・松尾璃奈、ピアノ・中村未奈）です。
アウトリーチの五期生から六期生、十四期生、十九期生、さらに現在の学部四年の在学生まで、学年の枠を飛び越えて集結したグループが鋭意、楽しいプログラムの準備を進めています。こちらどうぞご期待ください。

アウトリーチの活動記録集

二〇〇二年度にスタートしたアウトリーチ実習も二十年目を迎えました。その間、次の二冊の報告書を出してきました。

（一）二〇〇五～二〇〇八年度の活動・水色の表紙の報告書（特色GP報告書として二〇〇九年三月発行）

（二）二〇〇二～二〇〇四年度および二〇〇九～二〇一四年度の活動・ピンクの表紙の報告書（二〇一六年三月発行）

今年度末で担当教員が定年退職するに当たり、二〇一五年度以降の活動記録集を二〇二二年春に発行する予定で準備を進めています。

（アウトリーチ・センター長

津上智実）



♪今後の予定♪

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第59回 子どものためのオルガン・コンサート

～オルガンの音色に隠れた動物を見つけてみよう！～

日時：2021年10月16日（土）14：00開演※3歳未満のお子様のご入場はご遠慮ください。

会場：神戸女学院 エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

出演：大木麻理（オルガニスト、音楽学部非常勤講師）、森友歌（オルガン）、村田沙耶（オルガン）

入場料：大人1000円、子ども（3～19歳）500円

応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第60回 子どものためのクリスマス・コンサート ～世界からの贈り物～

日時：2021年12月11日（土）

第1部 11：00開演（年齢制限なし）

第2部 15：30開演（幼稚園年長以上対象）

会場：神戸女学院 エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

出演：アウトリーチ・プロジェクト あっぷっぷ！

谷田奈央（声楽）、東瑛子（ヴァイオリン）、玉置華（ヴァイオリン・ヴィオラ）

安達梨紗（打楽器）、松尾璃奈（ピアノ・編曲）、中村未奈（ピアノ）

入場料：大人500円、子ども300円

応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にてききな音楽のプログラムをお届けします。

♪幼稚園、小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、♪病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽
子どものための楽しい体験学習を！ プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター（月～金 10：00～15：00）

〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551

E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp <https://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

編集後記

皆様のお心へ素晴らしい音楽をお届けするために万全を期して「子どものためのコンサート・シリーズ」の準備を進めています。（森）

暑い日が続いていますが、次のオルガン・コンサート、クリスマス・コンサートに向けて準備を進められていることが嬉しいです！（丹野）

コロナ禍の影響が長引いて厳しい時代だからこそ、丁寧に音楽の場を作っていきたいものです（津上）